

# 平成から次の時代へ 〜滋賀の30年〜

まもなく、平成の時代が終わります。滋賀の歩みを次の時代に活かし、つないでいきます。

## 備える

### 気候変動

#### ■記録的な冷夏（平成5年）

平成の米騒動とも呼ばれ、県内でも米不足になりました。この時から、全国で日本米より細長いタイ米が出回りました。

#### ■異常渇水（平成6年）

琵琶湖で観測史上最低水位のマイナス123cmを記録しました。県内では初の取水制限を実施。湖岸近くの湖底が陸地化し、浮御堂が陸続きになるなど、日頃は見る事ができない光景になりました。



浮御堂

©びわ湖放送株式会社



長浜市湖北町延勝寺

#### ■台風第18号・初の特別警報発表（平成25年）

9月15日から16日にかけて、大津市や東近江市で最大累計雨量が600mmを超えるなど、各地で記録的な大雨となりました。数十年に一度の大災害が起これると予想される場合に出される「特別警報」が初めて発表されました。

#### ■県危機管理センター開設（平成28年）

地震や台風等による災害、テロ、新型インフルエンザなど、県民の皆さんの暮らしを脅かすような事案が発生した時に、対応を行う「危機管理の拠点」として整備しました。

#### ■県気候変動適応センター設置（平成31年）

近年、増加している異常気象リスクを回避・軽減させるため、県庁内に設置。全国で2例目です。今後、国立環境研究所と連携し、気候変動適応策の検討などを進めます。

## 行動する

### 環境・琵琶湖

#### ■全国に先駆けて「グリーン購入」に着手（平成6年）

「グリーン購入」という言葉がなかった時代に、滋賀県庁が日本初の組織的な取組として始めました。県民の皆さんの高い意識に支えられ、環境にやさしい物品購入の取組は事業者などにも広がっています。

#### ■「びわ湖環境ビジネスメッセ」スタート（平成10年）

西日本最大規模の環境産業見本市。「環境と経済の両立」を基本理念に持続可能な経済社会を目指し、環境負荷を低減する製品・技術・サービスを対象とした商談・取引と情報発信・交流の場を提供しています。



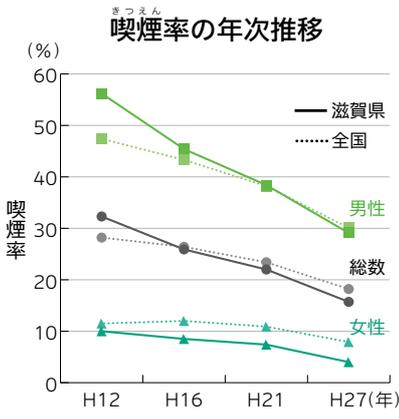
#### ■第9回世界湖沼会議を開催（平成13年）

滋賀県の提唱で創設された国際会議で、本県での開催は第1回以来。近畿1450万人の水源であり、多種多様な生物を育んでいる琵琶湖。その環境保全の取組を、会議を通じて世界に発信しています。



#### ■リリース禁止条例施行（平成15年）

都道府県で初めて外来魚のリリースを禁止する条例（琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例）を施行。琵琶湖は、多くの固有種が生息する世界でも有数の古代湖です。これからも琵琶湖の豊かな生態系を取り戻す取組に、ご理解とご協力をお願いします。



出典：滋賀の健康・栄養マップ調査、国民健康・栄養調査

「健康しが」を！  
 成人の喫煙率は次第に低下し、男女とも全国平均を下回っています。県計画での目標設定や学校での防煙教育など、長きにわたる取組の成果といえます。これからも、県民みんな

創る 健康

■ 男性の平均寿命が全国第一位 (平成29年)

県が行った「データを活用した滋賀県の長寿要因の解析」によると、滋賀県民の長生きの要因に、次の5つが挙げられています。

- ① たばこを吸う人が少ない
- ② 多量飲酒をする人が少ない
- ③ スポーツをする人が多い
- ④ 学習・自己啓発する人が多い
- ⑤ ボランティアをする人が多い

伝える 魅力発信

■ 滋賀県出身のアーティスト 西川貴教さんが「滋賀ふるさと観光大使」に就任 (平成20年)

観光大使に就任された翌年の平成21年9月には、県内初の大型野外フェス「イナスマロックフェス2009」を開催。それ以降、毎年開催され、累計の来場者は73万人を超えています。観光大使として、滋賀の魅力発信に大きく貢献いただいています。



©イナスマロックフェス実行委員会

■ 「ピワイチ」プロジェクト開始 (平成24年)

「琵琶湖一周」の略称から始まったといわれる「ピワイチ」。今では、年間10万人以上が自転車で琵琶湖を一周し、滋賀が誇るブランドに。



■ 「滋賀」オープン (平成29年)

東京・日本橋に滋賀県の情報発信拠点を開設。開館以来、一日平均で約1600名の方々に来館いただいています。今後も、滋賀の魅力を発信し、滋賀へといざないます。

交わる 次世代育成

■ ミシガン州立大学連合日本センター開設 (平成元年)

ミシガン州との姉妹提携20周年を記念して設立され、平成とともに歩んできました。平成30年には設立30周年を迎え、両県州の交流やグローバル人材の育成に貢献し続けています。

■ 大学誘致と県立大学の開学 (平成元年)

昭和の時代、滋賀県は大学の少ない地域でした。大学誘致や県立大学の設置を積極的に進めた結果、平成元年に龍谷大学の瀬田学舎、平成5年に成安造形大学、平成6年に立命館大学びわこ・くさつキャン



滋賀県立大学

■ 学習船「二代目うみのこ」就航 (平成30年)

初代「うみのこ」は昭和58年に就航し、35年の間に約54万人の児童が乗船しました。二代目「うみのこ」は、これからもたくさんの子どもの乗せて、琵琶湖を体感してもらうことで、環境や郷土を大切に育んでいきます。



30 YEARS OF HISTORY